

日本基督教団 東中国教区ニュース

NEWS

東中国教区
教区ニュース読者委員会
〒770-0088
倉敷市鶴形一五十五
倉敷キリスト会館内
旧(穴)四二二七六〇

議長就任のご挨拶

■教会 嵐 護

先の第六四回教区定期総会において、総会議長に選ばれ、畏れをもってお受けしました。大塚 忍副議長、中井大介書記ともどもよろしくお願いいたします。所信というほどのものではありませんし、また、これだけ達成できるかも分かりませんが、今思っているところを述べて挨拶とさせていただきます。

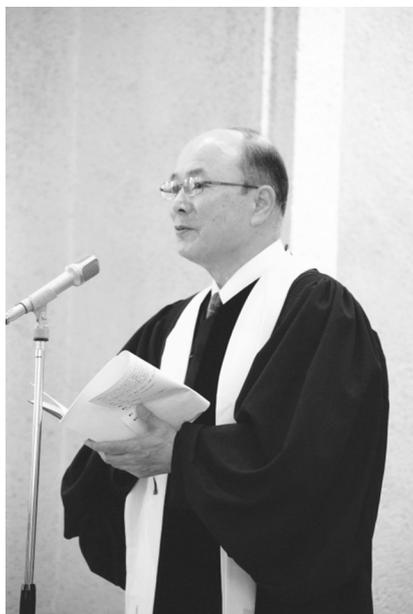
まず、総会では、教区の情報が各教会に適宜、適切に届いていないという意見が強く出されました。情報の発信と共有をどのようにしていくか、直近では常置委員会の情報を議事録の完結を待つまでもなく各教会にお届けするにはどういう方法があるか考えていきます。

次に、常置委員の構成が教職四名、信徒三名であることの問題提起がなされました。情報の共有と合わせて、本件のような常置委員会の在り方、ひいては教区運営の在り方について、各教会、各地区の皆さんと意見交換の場をどのようにして持つことができるのか考えさせられました。今後、常置委員会で協議していきますが、教区の活動の中ではもちろん、あるいは教会の訪問、地区協議会へも出席させていただくことに

なりましたら、忌憚のないご意見をうかがいたいと思います。

そうした具体的な話し合いを通して、教区の各教会がお互いに支え合って地域の宣教に取り組むにはどのような方法があるのか、また、高齢化、情報化という時代の趨勢に沿った教会の将来像はどうかについても率直に語り合えたらと思います。

第三に、信徒の皆さんの視点に立った教区の活動でありたいと念じます。具体的には、各部委員会が計画する諸行事に反映されることとなりますが、従来の慣習や取決めにはしなやかに対応して、大胆な発想で企画されてよいと考えます。その際には、今年度申請してきます教団の伝道資金について、制度自体がこれから内容を固めていく状況にあることですので、東中国教区の実情と照らし合わせてより良い方途を



目次

議長就任のご挨拶	1
副議長就任のご挨拶	2
書記就任のご挨拶	2
第六四回東中国教区定期総会報告	3
常置委員就任のご挨拶	5
教会紹介・高梁教会	6
東中国教区へようこそ	6
編集後記	8

さぐり、建設的な提言を視野に入れてもいいと思います。

第四は、「中期宣教基本計画(案)」の取り扱いです。前期の常置委員会では、プロジェクトチームが提言した各項目ごとに実行案に近い形の案をまとめました。しかし、常置委員会での検討状況について各教会と情報を共有できず、ひいては認識を共にすることができなかつたために、第六四回総会には議案として提出することができなかつたとされています。二〇〇九年から二期五年にわたるプロジェクトチームによる検討プロセスとその報告書に関しては様々の意見があることは承知していますが、二〇一四年度第六三回定期教区総会で審議未了廃案なつたまま、中途半端な状態になっていますので、何らかの形で結論を出さなければならぬと考えます。総会議案としなければならぬものか、内容を実質化して毎年度の予算措置で対応できないものかを含めて常置委員会で協議していきますが、あわせて、各地区、各教会の皆さんのご意見をお聴きできればと考えます。

わたしたちの教区は、一九九五年第四四回定期教区総会で「東中国教区宣教方策」を可決しています。五月の第六四回総会で、「安全保障関連法案の撤回」「沖縄の県民の声を尊重して下さい」の二声明が決議されましたが、内容的にはこの「宣教基本方

策」に沿うものであると考えます。また、教団との関係では、「改訂宣教基礎理論(第二次草案)」が本年一月に各教会に送付され、教団は「期限は定めのないものの第三八総会期中に意見をまとめ上げ、改訂された新しい宣教基礎理論を生み出したい」としています。「宣教基本方策」を有する東中国教区としては、この教団からの問いかけをなおざりにすることはできません。各教会の意見をお聴きする中で、担当委員会、常置委員会、教区の意見を取りまとめで行きたいと考えます。

以上のように教区の課題は多岐にわたっていますが、わたしたちは「主にあつて一つ」と信じますから、主の栄光を現すために各々の馳せ場に遣わされていきましよう。皆様のうえに、主にある平和がありますよう祈ります。

副議長就任のご挨拶

■教会 大塚 忍

第六四回東中国教区定期総会において副議長に選出されました。このことが神さまの召しであることを信じ、畏れつつ謙虚にその任にあたつていきたいと考えています。時に、わたしたち人間は被造物でありながらも自分の言葉と行いを絶対化し、神のように振舞ってしまうことがあります。そのような面がわたし自身にもあることを告白せざるを得ません。それゆえに立ち止まり「わたしは既にそれを得たというわけでもなく、既に完全な者となつていくわけでもありません。何とかして捕らえようと努めて

いるのです」とのみ言葉を想起し、真理はただ神のもとにあるという前提に固くたつて、繰り返しみ言葉に聞き、み言葉に打ち砕かれながら与えられた役割を担っていきたいと思います。

わたしたちは「変えるべきもの」と「変えてはならないもの」を見極める知恵が必要とされる時代に生きていることを感じていきます。その知恵をイエスキリストの言葉と振る舞いの中に求めていきたいと思ひます。

また、教区内の教会に集つておられる教会の皆さまとの「出会い」を大事にしていきたいと考えています。与えられる出会いに感謝し、お一人お一人が語られる言葉を大切にし、祈り合い支えあいながら皆さまと共に与えられる課題を担っていききたいと思ひます。

書記就任のご挨拶

■教会 中井 大介

このたび東中国教区第六四総会期の書記に選出いただきました倉敷教会主任の中井大介です。二〇一三年度末まで大阪教区におり教師委員長、宣教部委員長を拝命しておりました。大阪教区では私の在任中に現職教師が二名召天され、教師のご家族や教員、教区の友だちと共に悲しみを味わう経験をしたしました。また、東日本大震災の発生直後から数年にわたる教区活動に携わり、二〇一四年度に開催された大阪教区からの被災地ツアー企画の準備に取りかかっていたところでした。私にとっては、個

人、家庭、教会では担い得ない課題を一緒に祈り考えられる場所が教区です。そして教会という「暖かい家庭」を拠り所としつつ、教会が普遍的に担うべき宣教の課題に協働できる場所が教区です。また厳しい時代において、准允・按手札を施して牧者を立たしめるのも教区です。そのような教区の一機能である書記の職責を担わせて頂くことを畏れつつも覚悟いたしました。牧者は信徒に祈られるから牧者たり得る、と先輩にいわれた言葉を謙虚に受け止めつつ、教区にお任せ申し上げます。欠けたる人間であることの自覚から職務に邁進いたしますので、よろしくご指導下さいますようお願いいたします。



第六四回東中国教区定期総会報告

■教会 中井大介

日時：二〇一五年五月二十五日(月)

一三時〇〇分)

五月二十六日(火)一五時五八分

場所：日本基督教団 鳥取教会

◆組織会(出席議員数の確認と開会宣言)

正議員八九名中六九名出席(出席率約七七・五%)。嵐護議長によって、開会宣言並びに開会祈祷がなされた。

(一)補助書記選任に関する件(議案第一号) 森言一郎議員(旭東教会)、有岡史季議員(倉敷教会)を選任した。

(二)第六四回定期総会執行順序(案)承認に関する件(議案第二号)

◎緊急議案「国会への『安全保障関連法案』の提出に抗議し、撤回を強く求めます」(提案者：常置委員会)を議案第一七号として、「沖繩の県民の声を尊重して下さい」(提案者：常置委員会)を議案第一八号として取り扱う事が承認された。

(三)推薦准議員に関する件(議案第二号)賛成多数により可決した。

(四)総会特別委員、総会常任委員選任に関する件(議案第四号)

◆総会特別委員(議事運営委員、報告審査委員、財務審査委員、建議・請願審査委員、選挙委員)。

◆総会常任委員(会計監査委員、教会記録審査委員)。以上、各委員を選任した。

(五)常置委員会報告・教勢教務報告に関する

る件「第六四回東中国教区総会《議長報告》に代えて」と題して、第六三総会期常置委員会を代表して森嶋道常置委員より報告された。

・第六三回教区総会をめぐる経緯

・「中期宣教計画」をめぐる経緯

・議長、副議長、書記の辞任を巡る経緯

・伝道資金をめぐる経緯

質疑応答の後、教区規則第三四条による以下の事項を議場に諮り承認された。

●第一回常置委員会における書記辞任の件 ●第一回常置委員会における書記選

挙の件 ●第五回常置委員会における議長辞任の件 ●第八回常置委員会における書記辞任の件 ●第八回常置委員会における副議長辞任の件 ●第八回常置委員会における書記選

挙の件 ●第八回常置委員会における副議長選挙の件 ●第九回常置委員会における副議長選挙の件

◆続いて教区規則第一〇条二項による以下の事項について議場に諮り、全て承認された。

① 第九回常置委員会における議長選挙の件

② 第九回常置委員会における副議長選挙の件

(六)教区総会議長選挙に関する件(議案第五号)議長選挙の結果、嵐護議員が新議長に選出された。

(七)教区総会副議長選挙に関する件(議案第六号)副議長選挙の結果、大塚忍議員が新副議長に選出された。

(八)教区書記選挙に関する件(議案第七号)議長ならびに副議長によって中井大介議員が推薦され、議場はこれを承認した。

(九)各地区・各部署委員会報告に関する件報告審査委員会に回付された。

(一〇)二〇一四年度教区歳入歳出決算承認に関する件(議案第八号)

(一一)会計監査報告に関する件 松田章義財務委員長、阪西恵理子会計監査委員より報告がなされ、これを財務審査委員会に回付することを承認した。

(一二)教区常置委員選挙に関する件(議案第九号)

(一三)教会合併承認に関する件 高倉教会と津山福音教会の合併が承認され、今後の名称は高倉教会とすることを承認した。

(一四)准允式執行に関する件 野々川藍師(米子教会、日野教会、西伯法勝寺教会)の准允執行を承認した。

(一五)伝道所開設に関する件 常置委員会付託を承認した。

(一六)総会特別委員会、総会常任委員会報告に関する件 各委員会より報告がなされ、議場はこれを承認した。

(一七)各部署委員選任に関する件(議案第一三号)大塚忍選考委員長より提案があり、正議員六二名中五一名の賛成をもって可決した。

二〇一五～二〇一六年度 常設委員会

☆宣教師部 教育委員会(五名)
奥田望(招集者)、松井初、阪西恵理子、嶋村輝子、武藤勇

☆宣教師部 社会委員会(五名)
延藤好英(招集者)、森嶋道、平川英勝、土井しのぶ、笹井健匡

☆宣教師部 伝道委員会(五名)

田中寿明(招集者)、橋原正彦、難波幸矢、宮脇俊昭、田中英也

☆教師部委員会(五名) 柴田彰(招集者)、葉以潔、山本博之、山田忠義

☆財務部委員会(三名)

松田章義(招集者)、濱上進、松原慎一 ☆教区ニュース誌委員会(五名)

廣田崇示(招集者)、有岡史季、森言一郎、佐藤孝志

(一八)負担金算出賦課案に関する件(議案第一四号)

(一九)二〇一五年度教区歳入歳出予算に関する件(議案第一五号)上記二議案が一括

上程された。松田章義財務部委員長より、負担金賦課案が説明された。採決の結果、賛成多数で承認された。続いて、議案第一

一五号が松田章義財務部委員長より説明され、審議の後、賛成多数で可決した。

(二〇)緊急議案 「国会への『安全保障関連法案』の提出に抗議し、撤回を強く求めます」(提案者:常置委員会)(議案第一

七号) 賛成多数により承認した。

(二一)緊急議案 「沖縄の県民の声を尊重して下さい」(提案者:常置委員会)(議案

第一八号) 賛成多数により承認した。

(二二)二〇一五年度内の准允・按手に関する件(議案第一六号) 可決

(二三)第六四回定期総会議事録の取扱いに

関する件(議案第一九号)常置委員会に付託することを承認した。

(二四)第六五回定期総会開催日時・場所に

関することを承認した。閉会・・・嵐護議長によって、閉会挨拶、閉会宣言並びに閉会祈祷がなされた。

選挙結果一覧

(六) 教区総会議長選挙に関する件

(議案第五号)予備選挙結果(上位三位)

有効投票総数 六七票(内白票二)、無効票〇

大塚 忍 岡山・光明園家族 服部 修 蕃山町

嵐 護 琴浦・総社

得票数は伏して発表。議員番号順で表記。各候補者より所信表明がなされた。

本選挙結果 有効投票総数六七票、白票〇、無効票〇

嵐 護 琴浦・総社 三四 服部 修 蕃山町 三一

大塚 忍 岡山・光明園家族 二

選挙の結果、嵐護議員が新議長に当選した。

(七) 教区副議長選挙に関する件

(議案第六号)予備選挙結果

有効投票総数 六六票 白票四、無効票〇

大塚 忍 岡山・光明園家族 服部 修 蕃山町

奥田 望 上井・倉吉復活

得票数は伏して発表。議員番号順で表記。各候補者より所信表明がなされた。

本選挙結果 有効投票総数 六六票 白票二、無効票〇

大塚 忍 岡山・光明園家族 三八 奥田 望 上井・倉吉復活 一四

服部 修 蕃山町 一二 選挙の結果、大塚忍議員が新副議長に当選した。

(二二)教区常置委員選挙に関する件 (議案第九号)

教師常置委員予備選挙結果(議員番号順)定数四名の倍数候補として、上位八位の九名が選出された。

有効投票総数 二三八票 (内白票二七)、無効票〇

山本修一 津山城西・美作落合 服部 修 蕃山町

延篠好英 和気・三石・勝山・久世 田中寿明 天城

橋原正彦 鳥取 廣田崇示 鳥取信和

森嶋 道 湖山 柴田 彰 倉吉

奥田 望 上井・倉吉復活

得票数は伏して発表。議員番号順で表記。各候補者より所信表明がなされた。

教師常置委員本選挙結果 ()は補充員

有効投票総数 二四四票 (内白票二六)、無効票三

一 柴田 彰 倉吉 四九 二 田中寿明 天城 三五

三 森嶋 道 湖山 三四 四 奥田 望 上井・倉吉復活 三二

- (五) 延藤好英 和気・三石・勝山・久世 一七
- (六) 服部 修 蕃山町 一五
- 七 山本修一 津山城西・美作落合一四
- 八 廣田崇示 鳥取信和 一〇
- 九 橋原正彦 鳥取 九

信徒常置委員予備選挙結果(議員番号順) 定数三名の倍数候補として、上位六名が選出された

有効投票総数 一五六票

(内白票二二三)、無効票〇

難波幸矢 光明園家族

濱上 進 倉敷水島

土井しのぶ 総社

國岡啓二 用瀬

田中英也 上井

松田章義 鳥取

得票数は伏して発表。議員番号順で表記。各候補者より所信表明がなされた。

信徒常置委員本選挙結果 ()は補充員 有効投票総数 一八三票

(内白票一二一)、無効票一

一 松田章義 鳥取 三八

二 濱上 進 倉敷水島 三五

三 土井しのぶ 総社 三四

(四) 難波幸矢 光明園家族 二八

(五) 田中英也 上井 二六

六 國岡啓二 用瀬 九

以上

★セクシユアル・ハラスメント相談窓口
毎月第3水曜日 午前9時〜午後9時
電話番号 090-1330-8730

常置委員就任のご挨拶

●奥田 望：上井教会



私のような者を教区の常置委員に選んでくださいましたことを心より感謝しつつ、教区内諸教会の交わりのため少しでもお仕えることができたいと思っています。

●柴田 彰：倉吉教会



神さまのなさることに困惑しています。ただただ、主にある皆さんにお祈りいただき、務めが全うできますように。前に歩み出せる教区となりますように。

●田中寿明：天城教会



教区の皆様を選んでくださった事を神様からの使命と受け止め、今の自分にできることは何か、祈り求めながら進んでいきたいと思っています。お支え下さい。

●土井しのぶ：総社教会

再出発して丸二年の小さな総社教会ですが、



喜びを感謝し、大切にしていきます。

●濱上 進：倉敷水島教会



初めて常置委員に選ばれ、重責を感じています。課題の多い教区組織と各教会の信徒方との間の、潤滑油か接着剤になれば良いかなと思っています。お祈り下さい。

●松田章義：鳥取教会



「和解して宣教に専念」：ここ数年間、東中国教区の活動は、対立と混乱が続きました。今年度は、懺悔と和解により、共に宣教に励む新たな教区づくりを進めたいと思っています。

●森嶋 道：湖山教会



常置委員として選ばれました湖山教会の森嶋です。皆様の気持ちを、お受けしながら、未熟なせいで教区の働きを果たせているのかを反省しております。もし、神様の御心であれば、与えられた働きに力を灌ぎたいと思います。

教会紹介 高 梁 教 会

高粱教会は、一八八二年(明治一五)に創立され今年で一三三年となります。山間部の城下町である高粱に早くからキリスト教が伝道されたのは、同志社英学校の創立者である新島襄と高粱の人達の間に古くから



の繋がりがあり、その縁で新島襄が高粱まで来て伝道したのが教会創立のきっかけとなりました。県下最初の女学校を高粱に創立した福西志計子さんや、日本ではじめて

青少年の感化事業と社会福祉の先駆者となった留岡幸助さんは、教会創立の頃に洗礼を受けた人達です。
しかしキリスト教が伝道されはじめた頃の高粱では、町の人達の偏見は根強く、創立二年後には、大きな迫害事件が起こりました。今も礼拝堂正面にある大きな「迫害石」はこの時投げ込まれた石で、迫害の激しさを物語っています。しかし教会の人達

は聖書の教えを守ることで迫害を克服して、明治二十二年には現在の会堂が建てられました。それ以後、教会は高粱の町に根付いて行きました。一九七〇年代には高粱でも共働きの家庭が増えて、いわゆる「鍵っ子」が地域の問題になりましたが、当時の中島信義牧師はこういった地域のニーズに因應するために託児所「ひかり園」を開園して十二年以上の間、多いときは六十名以上の幼稚園児や小学校低学年児童を預かり、通常の保育に加えて英会話やお茶のお稽古など当時としては斬新な教育をしました。またこの当時は年に一度大がかりなバザーを開催し教会は多くの人で賑わいました。



一九九八年より、毎年十二月には市の青年団体が催すクリスマス・チャリティコンサートと周辺部(美観地区)のライトアップに教会堂を提供しております。明治時代に造られた会堂は県の文化財でもあり、近年ではNHK大河ドラマ「八重の桜」の影響などもあり、市の関係や一部の観光客に注目されているようです。これら地域の町おこ

しの面でも協力しております。

現在の牧師は八木橋康広牧師で歴代二十一代目となります。毎週日曜日の礼拝には二十名から三十名前後の方が集います。他に婦人会主催の週に一度の聖書研究会、月に一度の有志による聖句書道教室などが日常の主な活動です。その他毎年一回は外部から講師の先生を迎えて伝道のため講演形式で特別の礼拝を守ります。またクリスマス・イブの夜には、教会外部からも数多くの市民の方が参加して蝋燭の灯の中でイエス・キリストの降誕を祝う燭火礼拝を守ります。

現在の教会の課題としては、地域全体が少子高齢化してゆき、教会も同じような傾向の中で、どのように地域に伝道して後継者を育てて行くかという点が挙げられると思います。(高粱教会 泉妙子)

東中国教区へようこそ

旭東教会

森 言一郎(もり げんいちろう)



先の教区総会の時、「森先生、鯨の刺身を教会の冷蔵庫に入れておきました」という電話が留守電に入っていました。季節の

お刺身でかーるく一杯ご飯を頂くのがささやかな私の幸せと伝わっていたのです。鯖の刺身がこんなにも美しく、おいしいとは知りませんでした。これまでの我が人生で鯖は焼き魚でしたがここでは違います。前任教地、日本最北の町・稚内教会に仕えていた時、本場のホッケを口にして驚いたことに通じます。

岡山市東区・旧西大寺市にある旭東教会は、瀬戸内市や備前市方面の伝道の使命も担っているようです。裸祭り知られる観音院を中心に発展したこの地域は、小さいながらも町の機能が集中して本当に暮らしやすいです。伝道者になって二〇数年が経ちましたが、牧師として積むべき挫折や失敗を幾つも経験し、やっと牧会のスタート地点に立ったという思いを抱くこの頃です。恵みに応え明るく励みます。

今年五五歳。既に、高校時代の友人たちも定年後を視野に入れて過ごしている年代です。やがて隠退を迎えた時は、自分の気に入ったブレンド珈琲を日替わりでお出しする、ワガママな珈琲屋の親父になるつもりです。お時間が合えば香り高い珈琲豆をガリガリと挽き、私がポットで一杯ずつドリップいたします。旭東教会へ是非お立ち寄り下さい。

倉吉教会 柴田 彰(しばた しょう)

鳥取県中部にある倉吉教会に赴任しました。三月までは東北教区の福島県西郷村に



ある川谷教会に在職していましたが、これまで、保育園と児童館の運営責任も担っていましたので教会附属のめぐみ保育園の仕事にも役立っています。

東北教区に一八年いましたが、一〇年以上に亘って教区内の「協働的宣教」についての考察とプラン作成に関わることが出来たのは、貴重な経験であり、私の宣教論の基本になっています。またその間に教団の宣教研究所に委託されて「ラクーア伝道研究」に携わることが出来ました。小さな群れであるが故に宿している祝福の発見、そして、成長主義の呪縛からの解放は、神学校では学ぶことの出来なかつたものです。

東北教区時代以前には、埼玉の教会での牧師と幼稚園園長、外国人労働者の人権擁護の活動、アメリカのバークリにある神学校でエコロジー神学の研究をしていました。バプテスト教会のノリノリの礼拝はいい思い出です。説教の終わりは歌になり、牧師は毎回シャウトし礼拝全体がゴスペルライブです。

人生って、いろいろあって複雑ですが、振り返ってみると、神さまが導いて下さったとしか思えない経験や出会いの連鎖です。神さまのなさることは不思議です。東中国

教区の倉吉教会に導かれたのも、「神さまからの何か」を感じています。宜しくお願ひします。

米子教会

野々川康広(ののがわ やすひろ)



この度、米子教会に主任担任教師として赴任致しました野々川康広です。米子教会では、役員の方々が中心となり、積極

的に手伝って下さいます。そのおかげで、新米教師の私でも、何とか任せさせて頂いています。米子教会に赴任する前は、主任教師の指示に従い、教会に任せさせて頂いていたので、わりと楽な気持ちで教会に仕えることが出来ました。しかし、担任教師の時と状況が異なり、現在は、主が私の直接的な上司であり、今まで以上に祈りを要しています。正直、まだペースがつかめないと感じる今日この頃です。このように、何かにつけ、すぐに思い煩ってしまう私に、主は最近、ペテロの手紙五章七節「思い煩いは、何もかも神にお任せしなさい。神が、あなたがたのことを心にかけてくださるからです。」との御言葉を示して下さいました。この御言葉は私にとって、とても大きな慰めになりました。すぐに思い煩う

ような弱い私だからこそ、主は私の全てを引き受けて、十字架に架かって下さったことを、この御言葉を通して思い起こさせて下さいます。すぐに思い煩う弱い私でも、主は愛して下さり、用いようとして、遣して下さったことを信じ、感謝しております。不器用で、さしたる能力もない私ですが、自分の精一杯出来る限りのことをしていきたいと思っています。

米子教会

野々川 藍(のがわ あおい)



この度、米子教会に担任教師として赴任致しました野々川藍です。私は東京都の下町で生まれ育ちましたので、米子の豊かな自然に囲まれての生活が新鮮です。とにかく、初めてのことがばかりで、まだ戸惑うことも多いのですが、祈り支えられながら、何とか過ごしています。私は、幼い頃に母に連れられて教会学校に行っていました。やがて教会から離れ、悩みが多かった高校生の時に教会が与えられて、再び教会に行き始め、受洗しました。それは女性の韓国人の宣教師が開拓していた教会でした。礼拝は日本語でしていましたが、日本人よりも韓国人留学生が少しずつ救われて行き、私は日本にいなながら、青春期を韓国人のお

兄さん、お姉さんに家族のように可愛がられて過ごしました。そして、そのお兄さん、お姉さんは、私に与えられた召命を信じ、今日伝道師となるまで懸命に祈り支えてくださいました。私の両親が、私が大学時代に次々に癌で召され、悲しい思いや寂しい思いもしましたが、主は愛情豊かな方々と出会わせてくださり、大いに慰められて来ました。また苦難を通して、信仰が度々振るわれましたが、信仰とは、私の頑張りではなく、ただただ主の御業なのだということとを教えて頂き、今日に至っています。こんな私ですが、どうぞこれから宜しくお願ひします。

倉敷水島教会

松井

初(まつい はじめ)



初めましてこの四月一日に関東教区新潟地区の新発田教会から倉敷水島教会に赴任しました。松井初です。一九六〇年東京都武蔵野市に生まれ六四年から府中市で育ちました。子供の時より両親と一緒に国立教会に通い、二〇〇〇年の礼拝時に宍戸達牧師から洗礼を受けました。地元の小中学校や都立小平高校に通い、その後中央大学経済学部を卒業後に社会人を経て二〇〇二年

に同志社大学神学部三年編入し、同志社大学神学研究科を修了後に、二〇〇五年に茨城地区の水戸教会に、新潟地区の燕教会から新発田教会に赴任しました。中学高校では野球部に所属し、卒業後も同期の部員で草野球チームを結成し社会人になっても続けていました。大学の時は中央大学二輪愛好会というオートバイのサークルに入り、モトクロスや草レースやツーリングで様々な所を走っていました。ある時聖日で草野球の第一と第三試合の合間をぬってオートバイで教会に行きましたら、自分でも何か場違いな感じがしました。この後何回かありましたが、社会時代を通して初めての岡山県、初めての関東教区以外の地区に赴任して未だ不慣れや不安な面がありますが、教会や出会う皆様の温かさに日々励まされて今日に至りました。小さき器の私ですが、教区の皆様のお祈りとお支えを賜り共に歩みたく、これからも何卒宜しくお願ひ申し上げます。

編集後記

東中国教区の様々なところで体制が新しくなり、今回の誌面は、紹介記事と写真の多い、フレッシュなものとなりました。教区ニュース誌委員会もメンバーが変わり、新体制のもと新たな企図を思い描いています。新しくされた、それぞれの場所、より一層、主の御業が実現されることを、祈りつつ。

(A・F)